この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文 大須賀一雄

87

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

八幡町四丁目にて

この作品は、数年前の4月に、八幡町四丁目で見かけた桜を描いたものである。

ところで、先日近所の店でコーヒーを飲んでいると、数人の外国人がやってきて、私の近くに座った。しばらくして、私が近くの一人に英語で話しかけ、会話が始まった。すると、仲間の一人が突然私に「ノアーズ・アーク（ノアの箱舟）を知っているか」と聞いてきた。私がうなずくと、「ではその舟には人間が何人乗っていたか」と尋ねてきた。私は全ての動物は一対で乗っていたことを知っていたので、「一組だと思う」と答えた。すると、彼は私に紙を差し出し、「ふねと書いてみて」と言うので、私は〝船〟と書いた。彼が「漢字の右上を読んで」と言うので、「はち」と言うと、彼は得意そうに「そう、つまり8人が正解です」と笑った。

私は外国人にこのような問題を出されるとは想像もしていなかったので、今でもなんだか狐（きつね）につままれたような気がしている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。